

## 令和3年度 第8回ひと咲きまち咲きあまがさき推進会議

日時：令和3年12月20日（火） 10：15～11：15

開催手法：WEB会議

### 1. 開会

座長： 主要取組項目について、前回の会議後に意見照会を行い、各局から回答をいただきブラッシュアップをしたので、共有し、意見をいただきたい。

### 2. 第6次尼崎市総合計画 素案（案）について

【資料第1号】【資料第2号】について事務局より説明

座長： 「資料第2号」の「具体の取組項目」に今後5年間で施策・組織横断的に重点的に実施していく項目を記載している。これらの取組を進めた結果、指標の改善につながるという関係性としてほしいので、そういった視点で見えていただきたい。

また、指標については、例えば「子ども・教育」に学力を測る指標を設定する場合、「全国平均を目指す」という目標でいいのか、といった点についても検討を続けており、意見をいただきたい。

委員： 学力を測る指標について、全国学力テストのD層（下位1／4）を引き上げるということも検討しているが、問題数の少なさや、年度による問題数の変更等があることから、測定方法を慎重に検討しており、主要取組項目の指標ではなく、施策評価で確認できないかと考えている。

座長： 主要取組項目の2つ目について、「つながり・ささえあい」を「生きがい・ささえあい」と変更する案にしている。指標については、「幸福度」の概念につながる「生きがいを持つ市民の割合」を設定することも選択肢にあるが、指標に2つとも主観指標を設定するのではなく、客観指標も設定する方が進捗を測るうえで有効ではないかとも考えられる。一方で「健康寿命の延伸」と市の施策の因果関係のわかりやすさの問題もあり、悩んでいる状況である。

委員： 「つながり・ささえあい」という項目名からは、健康面、保健分野であるということが見えづらかったが、「生きがいを持つ市民の割合」という指標と関連性はあると思う。一方で、健康面や「生きがい」だけではなく「重層的な支援の推進」や「地域防災力の向上」の指標を置くのであれば事務局案の「安全で安心して暮らせるまちだと感じる市民の割合」が適しているのではないか。

もう一つの「健康寿命の延伸」では、中項目の二つ目「健康で生き生きと暮らすことがで

きる地域づくり」で、その具体的な取組が「ヘルスアップ」「健康行動を起こす人づくり、まちづくり」「地域ぐるみで行う健康づくり」「健康寿命の延伸」といった要素に綺麗につながると思う。

座長： 施策評価の中では「生きがいを持つ市民の割合」はこれまで通り調査をしていき、総合計画の代表指標としては事務局案の2つを採用してはどうかと考えている。代表指標は「まちの通信簿」で市民の皆様に見ていただくことを想定している代表的な指標であることから、ここだけで全てを表現することが難しいので、施策評価の中で他の指標と組み合わせさせてやっていく。また、通信簿ではまとめとして文章で書く箇所もあるので、必要に応じてフォローしていくという運用にできたら良いのではないかな。

次の「魅力向上・発信」では、中項目で「マナー」に焦点を当てた「シビックプライドの醸成」、ハードも含めた「エリアブランディング」を設定しており、「エリアマネジメント」だと狭くなるため「エリアブランディング」としている。「エリアブランディング」「エリアマネジメント」「エリアごとのプロジェクト」といった表現の、言葉の使い方は整理したい。また、指標としては「まちのことに関心のある市民の割合」「まちのイメージが良くなったと感じる市民の割合」を案としているが、意見をいただきたい。ちなみに「まちのイメージが良くなったと感じる市民の割合」については、施政方針などで必ず触れてきた指標であり、ここ数年、良くなったと感じる市民の方が増えていることから、より推し進めていこうという段階であると考えている。一方でやや自虐的な感じもするというような指摘があった指標であると記憶しているが、全体のバランスを見るなかで設定しても良いのではないかと考えている。

委員： 事務局からの説明にあった「主観指標」と「客観指標」の組合せについて、ここは「主観指標」だけを設定するのか。

座長： 「客観指標」の設定がなかなか難しく、ここは「主観指標」2つになっている。

委員： 代替案で「地域活動に参加している市民の割合」はハードルが高くなるという説明があったが、やや「客観的」ではないかと思う。また、「まちのことに関心のある市民の割合」について、元々「市政に関心のある市民の割合」という指標があり、あえて「市政」ではなくて「まちのことに関心のある」と変更しているが、この変更についても悩ましいと感じている。

座長： 「地域活動に参加している市民の割合」が客観的になるというのは指摘の通りで、地域活動で思い浮かべるイメージが人によって違うのではないかという意見もあり、アンケート調査の時に例示をしていたと記憶しているがどうだったか。

事務局： 地域活動の参加の例示には「防犯活動」「防災活動」「交通活動」「地域の美化・緑化」「子育て支援サークル」「見守り」といった活動を例示している。

座長： 行政が関わってやっている事に参画しているかというイメージを持たれるような例示となっているが、地域の活動というのはもっと趣味的なものでもいいという考え方もあり難しい点である。

委員： 「シビックプライドの醸成」について、「マナー向上などによる」となっているが、市民が「シビックプライド」を持つことと、「マナーの向上」が直ちに結びつくのが疑問。また、これが「まちのイメージ」という指標につながってしまうため、ネガティブなイメージの改善に取られがちであるが、イメージが良くなるというのは当然「魅力あるまちづくり」もイメージにつながっていく。必ずしも悪いイメージの改善だけではないというのは理解しているが、「シビックプライド」は「マナー向上」ではなく、もっと「郷土愛」など他都市に誇れるものといった部分も含めて「シビックプライド」の醸成につながるのではないか。

座長： 中項目は「シチズンシップの向上」、「シビックプライドの醸成」と設定し、「具体の取組」の中に、広報の戦略的な展開や文化・歴史を含めたまちの魅力、学びなどで併せて、「マナー」に取り組んでいくと表現することはひとつの案であると考えている。一方で、「主要取組項目」として次の5年は「マナー」をかなり重点的に取り組むべき項目であると考えており、あえて中項目に「マナーの向上」と設定する案としているが、具体的な取組として、タイトルではなく文章で書くことも可能であるため、取組として「マナー」のことをしっかりと書く事で、重点化を打ち出すこともできる。中項目の1つ目を「シチズンシップの向上」としており、2つ目だけ重点項目がタイトルに入っているため、確かに違和感はある。

委員： 「マナーの向上」が消えれば、指標は「イメージが向上した」でも良いと思う。

座長： 「マナーの向上」とあり、指標が「イメージが向上した」と自虐的な感じが強くなるというのは指摘の通りで、文中には「実態とイメージのギャップの解消」や「魅力の向上と発信」など、「マナー」以外のことも書いているが、中項目のタイトルとしてあえて強調して「マナー」を記載した状態となっている。中項目のタイトルは「シビックプライドの醸成」として、「マナー向上」が、重要な取組項目であるということは、文中に記載するのが良いのではないかと思う。指標は「まちのイメージが良くなったと感じる市民の割合」を残し、審議会等でのご意見も聞いていきたい。

次に4つ目の「脱炭素」の指標について、1つ目の「市域におけるCO<sub>2</sub>排出量」は文句なしにこれで良いと思うが、2つ目については悩ましく、事務局案は市民からするとピンとこないような気がしており、局から出ている3つのうちのどれかが良いのではないかと思う。

委員： 市民意識調査の「市内で便利で満足のいく買い物ができると思う人の割合」が一番良いかなと思う反面、あまりにもピンポイント過ぎないかと。そういう意味では事務局案の「新たな事業にチャレンジしたい事業者数の割合」という指標が「客観指標」ではあるものの、どちらかといえばポジティブで、訴えるものがあるように思うが、できれば「主観」の

指標も欲しい。

座長： あま咲きコインをしっかりと定着させる5年にしたいという想いが非常に強くある。「市内で便利で満足のいく買い物ができると思う人の割合」は確かに狭い視点であるものの、地域に魅力的なお店が増えていくためのあま咲きコインであり、市内で使うところが無いとあま咲きコインも普及しない、と考えると悪くはない。また、「域内総生産」は市民にとってはピンとこない指標ではあるものの、意識している点のPRも兼ねることができるとも思う。「デカップリング」の話で、「CO<sub>2</sub>」の指標が2つだと市民からすると少し偏っているように感じるため、「事務局案」、「消費者にとって魅力ある経済が展開されている」、「域内総生産」の3つのどれかにしたい。

委員： 「域内総生産」の結果が出るまで1年以上かかり、内容的にも市民の身近な指標ではないと思う。また、指標をCO<sub>2</sub>だけにするのも偏りがあると思う。

座長： 「域内総生産」は1年遅れではあるのでそれを踏まえて指標とする必要があるため、白書などの別の形で示していく案もある。事務局案の「チャレンジする人や事業者数」というのも、10だったら良いのか30だったら良いのか、数字を見てもわからないのが難点。概念的には良いが、指標を見ても成績の良し悪しがよくわからないところがある。また、毎年右肩上がりが増えていくものではなく、デコボコして当然ということもあり、前年比を見るだけでなく、もう一捻り必要ではないか。

委員： 「市内で便利で満足のいく買い物」の代替案として、「休日を市内で過ごす市民の割合」というものも考えたが、地域活動など他の要素が大きくなりすぎるため、やはりここは事務局案が最有力候補であると思う。

座長： 先ほどの案は「地域活動に参加している市民の割合」の代替案として「休日市内でやりがいのある活動をして過ごしているか」のように設定しても良いかもしれない。ただやはり、市内で買いたいものがある、買いたいサービスがある、利用したいものがある、行きたい場所があるというのは、先ほどの「域内総生産」を上げていくためにも必要。尼崎市はやはり工業、ものづくりがあるまちなので「域内総生産」も商業以外の部分でかなり大きな数字が出て来てしまうので、市民の実感とは違う部分もあると思う。市民が実感しやすいのは代替案のような、市内に魅力的な供給があるか、という視点で、事務局案を第1候補とし、「市内で満足のいく買い物ができる」もしくは「市内で便利で満足のいくサービス利用や買い物ができる市民の割合」を第2候補にして、審議会に諮り、ご意見をいただこうと思う。

委員： 「施策13 都市機能・住環境」の「II 都市機能・住環境指数」で「生活利便施設カバー率」というものを挙げているが、魅力ある施設の増減を調べるため、客観的指標として、生活利便施設がどれだけ市内をカバーできているかという視点で設定している。これを

踏まえると、「魅力がある」という主観的な指標を入れていただくと補完できるため、私は2つ目の候補に挙がっていた方を推したい。

座長： 量と質のような設定となり面白いと思う。今の意見を踏まえ、第1候補を「市内で便利な満足のいく買い物ができる人の割合」で第2候補を「チャレンジする事業者数」として、審議会に諮りたいがどうか。

委員： 施設も含めて「地域の中で暮らしやすい」「快適で魅力的だと思っている」市民という視点となるので良いと思う。

座長： そこでしか食べられないものがあるというような个性的なお店や、面白いものがあり皆が集まることができる場といったものが、尼崎には足りてないということは漠然と理解しているため、そこを増やしていきたい。経済規模としては小さいかもしれないが、暮らしの豊かさという部分に非常に関係が深いところであると感じている。これをどのように表現するのも検討したい。

#### 【資料第3号】について事務局より説明

座長： 全体についてはデザインでもう少しブラッシュアップできるところもあり、文言も熟度が低い状況ではあるが、構成として全体の流れが頭に入りやすいかという点を含め、会議終了後に意見照会をさせていただきたい。

### 3. その他

#### 今後のスケジュールについて事務局より説明

事務局： 本日の意見を踏まえ、12月24日の総合計画審議会の専門部会において外部の意見も聞きながら、素案についてはブラッシュアップしていきたい。その後、1月14日に総合計画審議会の総会があり、その場でパブコメの素案を諮りたいと考えている。

座長： 役職者を中心に局で意見をもらっていると思うが、若手職員に総合計画に関心を持ってもらうための取組はしている、またはする予定はあるのか。

事務局： 予定していなかったが検討したい。

座長： 役職者で作り、若手職員は知らないというのは少しもったいないので、これからを担う人たちの意見も少し聞いてみたい。これも各局に案内や、船木ゼミや夜カツなど既存の集まりとコラボするとか、負担が重くなりすぎないように考えてほしい。

以上